

# いさご

第 60 号

特集:60号記念アートギャラリー



2009年2月 日本野鳥の会 三重県支部

[http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/)

# 支部報「しろちどり」60号によせて

支部長 平井正志

日本野鳥の会三重県支部の支部報「しろちどり」が60号を迎えた。前身の三重野鳥の会から支部への移行が1993年であり、その時支部報の名前が「しろちどり」となり、5月に創刊号が発行されている。創刊号には当時の杉浦邦彦支部長の文と共に支部顧問であった故橋本太郎氏が一文を寄せている。氏は当時も続く自然破壊に心をいためておられた。その、橋本太郎氏は2004年に亡くなられ、2005年3月の第46号は氏の特集であった。創刊からはや16年、編集者は次々と変わった。なかなか次号が刊行されず、支部会員からクレームの出る期間もあったが、ここまで、会員相互の交流の場、県内の野鳥と自然に関する情報提供の場として継続してきた。支部報「しろちどり」は県外でもすべての野鳥の会支部へ送付されており、多くの野鳥関係者の目に触れている。自然保護の立場にたつ側の組織も資金もあまり潤沢でなく、多くの刊行物を出すにはほど遠い。三重県内の野鳥や自然に関する情報に関する継続した刊行物は今でもごくわずかである。これまでも貴重であったし、

今地球温暖化が急速に進み、また、高度成長そのものは過ぎ去ったが依然として自然破壊が続く中でこれまでも増して重要である。「しろちどり」に掲載された情報は皮肉なことに各種のアセスメントの書面にも引用されている。

日本野鳥の会各支部の支部報も様々である。毎月発行している支部もあれば年、1, 2回のところもある。探鳥会の報告だけでは興味が今ひとつであろう。できれば隔月発行にしたいが、現在の三重県支部の力量では年4回の発行が精一杯であろう。これからも主として野鳥と自然に関する県内の情報を掲載してゆきたい。また、支部会員が楽しめる読み物も掲載してゆきたい。支部会員の積極的な投稿を望みたい。

今インターネットが盛んになり、紙ベースの刊行物はいらないとする意見もあろう。しかし、紙の保存性は確かであり、一度印刷したものは改変ができないという重みがある。かつ、インターネットを使わない支部会員にも情報を提供できる。当面は紙ベースの支部報を継続する必要がある。

## 表紙の言葉

北川和則（多気町）

毎朝、散歩している道ばたによくカワセミが飛んでくる。

道のそばには、小さなため池があって、よくそこへ飛んでくる。

その美しさから飛ぶ宝石と呼ばれる鳥  
自分の好きな鳥でもある



ノスリ

## 目次

支部報「しろちどり」60号によせて	1
表紙の言葉	1
特集アートギャラリー	2
行者山風力発電のその後	6
法人改革に伴う本部組織変更と 支部名の変更について	8
野鳥情報	8
野鳥講座2・野鳥講座3	9
会員のページ 俳句	10
事務局だより	10
探鳥会報告	12
しろちどり原稿募集	17
北勢地区地区会情報	17
編集後記	17

60号特集 アートギャラリー



ナベヅル 林 益夫 撮影日時 2008.11.23 撮影場所 鈴鹿川河口 11羽.数日間滞在中での一枚 夕暮れの鈴鹿川にたたずむナベヅル



ヘラシギ 林 益夫  
撮影日時 2008.9.14  
撮影場所 雲出川河口  
2日間の滞在でした カニを捕食するシーンを始めてみました  
カニを捕食するヘラシギ



ハマヒバリ 岡 八智子

エリマキシギ 中西 章



オオタカ 米倉 静



ダイサギ 米倉 静

ヘラサギ 米倉 静





デジスコ（オオセグロカモメ）

西村四郎 2008.2.29

尾鷲市

デジスコの魅力は、遠くの物を近くに撮ることでもありますが、近くの物をアップで撮ることでもあります。

冬の池（オオタカ）

西村四郎 2008.1.5

松阪市

狩りに成功して近くの茂みに隠れました。獲物はカイツブリかバンのようなようでした。



## 行者山風力発電のその後

鳥羽市 川村晴彦

### はじめに

風力発電は温暖化防止対策として世界的に建設が進められており、わが国でも近年、飛躍的にその数を増しています。平成 13 年春には、私たちの住む鳥羽市船津町の行者山にも、地元業者の計画のあることがわかりました。

風力発電は自然や環境に優しいクリーンエネルギーであるとされていますが、立地によっては住民の生活環境や自然、景観、野生動植物などに大きな影響を及ぼすことが明らかになっており、行者山風力発電にも多くの問題があったため、私たちは今日まで 7 年間にわたり反対運動を続けてきました。

### 1. 一度目の計画と事業者の挫折

行者山風力発電は平成 13 年春に一回目の計画が明らかになりましたが、伊勢志摩国立公園内のため、景観に影響を与えるとする環境省から計画縮小などの指導を行う可能性を示唆され、業者は平成 15 年末に計画を断念するに至りました。この間、地元住民や計画地の地権者には、平成 13 年 4 月に一度だけ開いた説明会以外、何の説明もないまま、業者は中部電力と売電契約を結び、鳥羽市は伊勢志摩国立公園の規制緩和を目的とした「風車特区」を申請するなど、住民無視の姿勢は目に余るものでありました。

### 2. 再び動き出した計画

風力発電施設設置の審査基準を明確化するためとして、平成 16 年 4 月に自然公園法施行規則の一部が改正され、これが実質的な規制緩和となって行者山風力発電が再び動き始めました。業者は秘密裏に準備を進め、新会社を設立し、平成 17 年秋に満を持して住民と地権者に対し、計画への賛同を求める働きかけを始めました。これに対し、私たち反対派は「鳥羽の自然と環境を守る会」を立上げ、また計画地がタカ渡りのルートであったことから「日本野鳥の会三重県支部」とも連係し、反対運動を再開しました。

平成 17 年末から始まった反対運動で、環境

省をはじめ関係先へ届けられた大量の建設反対表明や上申書は、各種許認可、補助金交付の審査などに大きな影響があったようです。また行者山の北山麓に位置する落口町内会の反対決議や、平成 18 年 4 月 22 日に行われた日本野鳥の会三重県支部主催の「行者山緊急探鳥会」における探鳥会終了直後のクマタカ確認なども、反対運動に強い追い風になりました。その結果、形勢不利とみた業者は、経済産業省の補助金交付決定直前の平成 18 年 8 月末に補助金申請を取下げ、その後、森林法の規定による林地開発の許可申請も取り下げるに至りました。しかし業者は、「許認可や申請の取り下げは、風力発電計画を断念したためではない」とし、再度計画を見直し、改めて事業の再開を図るための戦略的撤退であるとの意向を示しました。

### 3. 大手業者が参入、3 度目の攻防

平成 19 年になっても業者に動きはなく、風力発電は次第に地元民の話題にも上らなくなり、反対運動が縁で野鳥の会に入会していた私にとって、心待ちしていた 2 度目のタカ渡りの季節が近づいていました。春にはまだ警戒心を解いていなかった私たちも、その頃にはもう大丈夫だろうという思いが強くなっていて、時折行者山を眺めて思い出す風力発電にもそれほど心煩わされることもなく、サシバやハチクマが秋空に乱舞する様を思い描く日々を送っていました。

ところが 9 月末になって、私たちはそんな思いが甘かったことを思い知らされることになりました。タカ渡り観察地点の鳥羽消防署横空地で、業者委託のタカ渡り調査員と鉢合わせることになったのです。さらに追討ちをかけるように、業者の動きを調べ始めた私たちの耳に、具体的な社名は不明ながら、地元業者を超大手がバックアップするという噂が届きます。そして年が明けた 1 月末、私たちは事態が重大な局面を迎えていることを知りました。噂の超大手業者が、風力発電では最大手の一つである(株)ユーラスエナジージャパン(東電系。以下ユ社)と、(株)ウインドテック(豊田通商系。以下ウ社)と判明し、さらに両社が地元業者から事業譲渡される予定だとわかったのです。その事を知っ

たとき、私は反対運動が最大の山場に差しかかっていることを知ると同時に「今度ばかりは駄目かも知れない」と思いました。しかしその反面、「相手にとって不足はない」という思いと、大手であれば、誠意をもってあたれば理解を得られるのではないかという期待もありました。

いずれにしても私たちは、私たちの暮らしと、クマタカをはじめとする野生動植物や渡りの鳥たちを守るため、最強の敵に3度目の戦いを挑まなければならなくなりました。

私たちは噂の超大手との戦いに臨み、市議員の皆様に行者山風力発電の問題点をご理解いただく必要があると考え、12月末から3回にわたり、風力発電全般と行者山風力発電の問題点をまとめた「自然と環境について考える」と題する文書を市議の皆様にお届けしました。

また1月末に噂の業者がユ社とウ社であると判明したため、両社に対し、行者山風力発電の問題点及び当初からの顛末、反対派の状況などの記録を添え、同事業からの撤退をお願いする上申書を郵送しました。また上申書には、私たちが上京し、面会の上、行者山風力発電の問題点をより詳しくご説明させて頂きたいとの一文を添えましたが、その結果、4月7日に両社の担当者が鳥羽へ来られ、7日夜に意見交換会を開き、8日には現地を視察して頂くことができました。ユ社とウ社の皆様は大変紳士的で、真摯に私たちの主張に耳を傾けてはくれましたが、「更に地元の皆様のご理解を得られるよう努力したい」との言葉を残して帰京されました。

その後、私たちは多数の市議の皆様のご理解を得られたと判断し、6月議会に「行者山風力発電の反対決議を求める請願」を行った結果、請願は13対2という大差で採択され、反対決議も同数の賛成多数で可決されました。

以来、今日まで業者側に動きはなく、従業員には転業する者もあり、地元業者の親会社である建設会社は廃業し、ユ社とウ社が撤退したと思われるふしもあります。これで行者山風力発電計画が終わったと考えるのは早計でしょうが、大きな山は越えたのではないかと思います。

#### 4. 風力発電の将来について

風力発電に係りを持ってから7年間、資料多



数を収集し、マスコミの報道にも注意を払ってきた私は、現状の風力発電には他のエネルギーに比して言われるほどの経済的、環境的優位性はないと考えています。エネルギーは必要なときに必要なだけ使用でき、安定して供給されなければなりません。しかし風まかせの風力発電は出力変動が激しく、またエネルギー密度の低い風力に頼るため、設置には広大な面積が必要です。さらに四方が海で、自然豊かな山地に富み、四季の変化に恵まれた私たちの国は、それ故に風速と風向の周年変化、日変化ともに大きく、また毎年幾つかの台風も襲来するため、設備の破損事故や故障が多く、老朽化も早いという問題もあります。風力発電が将来真に有効なエネルギーたり得るためには、例えば安価で耐久性があり、高効率かつ巨大容量で、更に廃棄処理が容易な充電池が開発されるといった、技術的なブレークスルーが必要であると考えます。

#### おわりに

温暖化問題に限らず、環境保護や自然保護は、これ以上の自然破壊を行わないというところから始めるべきではないでしょうか。私には、温暖化に限らず、人類が破壊し続けてきた自然が、ここにきて大きくバランスを崩し始めているような気がしてなりません。また野生動植物の保護は、クマタカなどの希少鳥類のみでなく、あらゆる種に必要なものであると思います。

自然界では多種多様な生物が絶妙なバランスを保って生きていますが、地球上の生物はすべての種に存在意義があり、生態系のバランスを保つためにはあらゆる種の存在が必要で、人類もその一員でしかありません。



旧約聖書『創世記』によれば、神は墮落した人類を懲らしめのために滅ぼしてしまおうとされますが、正直者のノアだけは助けようと思ひ、ノアに方舟を作るよう命じます。その際、ノアに「ふねは大きくなければいけない。家族と一緒に入りなさい。あらゆる動物の雄と雌を1匹ずつ乗せなさい」と言われたとされています。神はノア（人類）が生きてゆくためにはあ

らゆる種の生物の存在が必要であることを示唆しておられ、生物の多様性と生態系のバランスが大切であることを示すエピソードとして興味深いものがあります。私たち人類は、風力発電に限らず、自然破壊（現状変更と言い換えてもよいでしょう）を伴う行為は厳に慎むべきであると思います。

## 法人改革に伴う本部組織変更と支部名の変更について

### 三重県支部理事会

公益法人制度改革関連3法案」が2006年5月に第164回通常国会において法案が成立し、2008年12月から施行されて、日本野鳥の会（財団法人＝通称本部）も5年以内に新制度への移行を強いられている。

日本野鳥の会はこれまでややわかりにくい構成をとっていた。全国組織である日本野鳥の会（本部）は法的には財団法人である。それに対して支部は財団法人とは組織的につながらない組織であり、法的には法人格を持たない任意団体である（一部に鳥取県支部のようにNPO法人の資格を得ている支部もある）。ただ、会員の多くは両方に所属しており、会としての理念も明文化はされていないが、ほぼ同じと考えてよいであろう。また、会費徴収は本部が代行し、支部会費は財団から支部へ送金されている。

今回の法人改革により財団法人は公益財団法人となるかあるいは一般財団法人となるかの選択を迫られた。財団法人「日本野鳥の会」（本部）が一般財団法人となった場合、税金などの負担に到底耐えることができない。また、会設立の趣旨からしても公益法人となるべきであるというのが本部の考えである。財団法人「日本野鳥の会」が公益法人となるにあたり、各支部が支部と名乗ることは財団法人の下部組織であるかのような誤解を招くため、障害となることが明らかになっ

た。ちなみに公益法人の認定は国の認定判断にゆだねられる。この点について2008年11月の中部ブロック会議（新潟）でも活発に論議された。その結果、各支部が「支部」の名をはずすことで概ね了承された。支部名をはずすことにより、本部（財団）と支部は別組織として認識されるであろうとの見解であった。財団の公益法人への移行は2010年を予定している。そのためには2010年までに各支部が「支部」をはずす措置が必要となる。しかし、その後各支部が「支部」の名をはずすことだけでは受け入れられないとする当局の見解が示され、支部名をどうするか本部名をどうするかについてはまだ不確定な部分が多い。いずれにせよ、本部が公益財団法人をめざすことにはかわりなく、どちらかが、名前の変更をよぎなくされる点は間違いのないであろう。全体の方針が明確になった時点で支部は対応したい。



カワラヒワ

# 野鳥記録(2008年10月～09年1月に報告のあったもの)

※表中の「報告者」は「初認者」ではない場合もあります。

種名	個体数	記録日	場所(通称など)	記録報告者	写真	備考
ハシブトガラス(白変)	1	2008/6/24	四日市市下海老町	堀田 正昭	○	1
ジョウビタキ	1	2008/10/4	三重県南牟婁郡紀宝町井田	清水 勝海	×	2
ナベヅル	9	2008/10/29	三重県南牟婁郡紀宝町井田上野	清水 勝海	○	
ナベヅル	2	2008/10/29	三重県南牟婁郡紀宝町神内 水田	清水 勝海	○	
ズグロカモメ	5	2008/11/2	鈴鹿川河口部	安達 直孝	○	
ハシブトガラス(白化)	1	2008/11/9	四日市市下海老町	安藤 宣朗	○	3
ズグロカモメ	2	2008/11/10	三重郡川越町朝明川河口・高松海岸	横山 真一	○	
ハクセキレイ(白化)	1	2008/11/11	紀宝町神内	清水 勝海	○	
ワシカモメ	1	2008/11/15	伊勢市東大淀町の海岸	田中 洋子	○	
ナベヅル	11	2008/11/22	楠町公民館の東側の田んぼ	安達 直孝	○	4
ナベヅル	11	2008/11/22	四日市市楠町北五味塚の水田	大塚 之稔	○	4
ナベヅル	11	2008/11/23	四日市市楠町～鈴鹿市長太	横山 真一	○	4
オオハシシギ	1	2008/11/24	金剛川	安達 直孝	○	
ズグロカモメ	15+	2008/11/24	金剛川	安達 直孝	○	
ズグロカモメ	2	2008/11/24	四日市市楠町 鈴鹿川派川河口	横山 真一	○	
アメリカウズラシギ	1	2008/11/27	紀北町海山区の船津川	北川 直人	○	5
カワラヒワ(部分白化)	1	2008/12/9	四日市市西坂部 海蔵川河畔	安藤 宣朗	○	
ナベヅル	11	2008/12/10	伊勢市西豊浜町の水田	小坂 里香	○	6
オオハクチョウ	2	2008/12/11	松阪市嬉野黒田町 雲出川中流	小野 新子	○	7
ミヤコドリ	53	2008/12/20	津市安濃川河口	岡 八智子	○	8
ムナグロ	9	2008/12/28	鈴鹿市下箕田町海岸	安達 直孝	×	
トモエガモ	1	2008/12/28	四日市市楠町吉崎の養魚池	安達 直孝	○	
コクガン	1	2008/12/28	松阪市阪内川河口	西村 四郎	○	9
シロカモメ	1	2008/12/31	鈴鹿市若松漁港南海岸	安達 直孝	○	
ミミカイツブリ	1	2009/1/11	津市白塚海岸沖	安達 直孝	○	
イワツバメ	50+	2009/1/12	度会郡度会町麻加江の宮川	小坂 里香	×	
ミヤコドリ	3	2009/1/12	伊勢市宮川河口	世古口 有司	×	
コクガン	4	2009/1/12	伊勢市宮川河口	世古口 有司	×	
イワツバメ	2	2009/1/12	津市片田田中町岩田川上流田園地帯	川口 久美	×	

- 備考1 非会員の報告。ほぼ全身白色。2007/9/12津市で記録(平井正志報告)された個体か。
- 備考2 初認記録
- 備考3 備考1と同一個体。
- 備考4 同一の群れを複数の観察者により報告。11/26まで滞在、その後伊勢市に移動したもよう。
- 備考5 11/28まで 現地で観察された。
- 備考6 備考4と同一か。12/11に飛来。12/21まで滞在し、その後2009/1/8愛知県田原市にて確認。1/12当地に再飛来・滞在后1/15以降不明。1/17滋賀県草津市にて発見、琵琶湖周辺に滞在のもよう。(現地「伊勢豊浜ナベヅルを守る会」の情報より)
- 備考7 灰褐色の幼鳥。
- 備考8 会員6名にて津市町屋海岸～松阪市金剛川まで数カ所で一斉カウント。越冬数過去最大。
- 備考9 幼鳥。12/9の記録(非会員からの報告)あり。同一個体と思われる。

観察記録募集！支部のHP [http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/index.htm](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/index.htm) から簡単に投稿できます。支部報に掲載できない記録もデータとして保存しています。ぜひご協力ください。

## 野鳥講座第 2 回

### 「デジスコ教室」開催

2008 年 11 月 29 日(土)午後 1 時 30 分より、三重県総合文化センター・文化会館にて「野鳥デジタル写真講座」を開催しました。講師(名古屋鳥類調査会の前田 崇氏)からデジスコの注意点などの講習を受けた後、窓の外の風景で実技を行うなどの指導を受けました。また、機器メーカーの興和(株)の協力により、最新のデジスコ機材に触れ、使用感を実感することができました。

参加者レポートは支部のホームページをご覧ください。

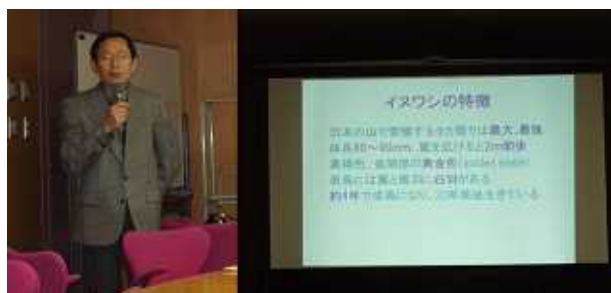
[http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/081129/lecturerhoukoku.htm](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/081129/lecturerhoukoku.htm)

## 野鳥講座第 3 回

### 「イヌワシと白山の自然」開催

2009 年 2 月 1 日(日)午後 1 時より、三重県総合文化センターにおいて、石川県白山自然保護センターの上馬康生氏による野鳥講座が開催されました。

当日は、イヌワシの生態だけでなく、霊峰白山のいろいろな面からの紹介もありました。イヌワシの繁殖成功率が 20%と少ないこと、人が山での作業(炭焼きなど)をしなくなったことで、イヌワシの狩猟が難しくなったなど、興味ある話がたくさんありました。



## 会員のページ

俳句 北川和則(多気町)

矢のごとく空をきりさく風の精  
寒月の夜空に響く雁の声  
湖に花と咲かせるカモの群

## 事務局だより

支部活動の記録(2008 年 1 1 月 ~ 2009 年 1 月)

- 11/2~3 中部ブロック会議に参加
- 11/9 2008 年度第 3 回理事会
- 11/3 支部報「しろちどり第 59 号」を発行・発送
- 12/2 平成 20 年度防ダム環境調査その 2 委託について県と契約
- 12/20 白塚・町屋海岸の清掃作業
- 12/21 「伊勢豊浜ナベヅルを守る会」結成式に参加
- 12/25 株式会社青山高原ウインドファームに「青山高原ウインドファーム風力発電増設事業に係る環境影響評価方法書に対する意見」を提出

2009 年

- 1/11 平成 20 年度ガンカモ類及びカワウ一斉調査事業委託の実施

- 1/22 三重テレビ放送の番組制作に協力  
1/29 伊勢市小俣町の宮川砂利採取現場を視察

今後の予定

- 3/8 第4回理事会  
3/20 支部報「しろちどり第60号」発行  
3 委託事業のまとめ作業 / 決算

トビ



理事会報告

第3回(2008年11月9日 13:30~16:30)

津市雲出市民センター 出席者8名

中部ブロック会議報告

- ・法人改革について 公益財団化について  
支部の名前をとればよい。「日本野鳥の会三重」は可。支部の名称変更の期限 2010年3月まで
- ・フィールドマナーについて 野鳥の写真マナーと野鳥観察マナー
- ・風力発電(あわら市) 鴨池から餌場のルート上(石川県支部・福井県支部・あわら市長が反対)
- ・会員増加問題  
本部・各支部ともに減少。愛知県支部の取り組み(いろいろな取り組み)  
支部会員を増やすための対策は  
三重県最大の自然保護団体であることをアピールする必要がある
- ・次回は岐阜県白川村で開催 その次は福井県

来年度の体制について

- ・理事 4名の理事候補
- ・企画部 部長を西村四郎理事に
- ・運営委員 1名の運営委員候補

支部名変更 会則改正 総会

「日本野鳥の会三重県支部」の名称を使えない。

原案は「日本野鳥の会三重」とする 「支部長」は「代表」とする。(現在再検討中)

第5条(1)「日本野鳥の会三重県支部から継承されたもの」へ変更。

来年度の企画

- ・探鳥会計画を12月末までに企画部長へ送付
  - ・総会5月17日(日) 三重県総合文化センター 野鳥講座は身近な人
  - ・支部主催 探鳥ツアーを企画 ワイバードなどの旅行社も考える。日帰りを中心に検討する。
- 三重中勢五主海岸 これまでのデータをまとめる 支部報などに発表
- 会員増加方法 最近の新会員が無く、退会者のみである。
- 委託事業についての規約 旅費規程を確認した。

宮川の桜の渡し(水辺の学校・国土交通省)

中州の砂利採取が行われている。

管理が悪く、危険水位になったこともある。

国土交通省は一般事業者が行っていることなので自然保護団体には伝えなかった。

名張のウグイス問題 名張市に話をする。

紀南支部の設置について 今後検討していく。

## 探鳥会報告

(08年10月~09年1月)

### 鳥羽行者山タカ渡り探鳥会

2008年10月5日(日) 7:00~10:00

鳥羽消防署横空地

川村 晴彦・落合 孝之 参加者12名(会員11名)

カワウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、ミサゴ、ハチクマ、トビ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、キジバト、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、イソヒヨドリ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、コジュケイ。計23種

今年は渡りが早く、ピークを過ぎてしまっていたようです。サシバは1羽も見られず、ハチクマ7羽、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ各1羽が観察されただけでした。

### 金剛川・櫛田川河口探鳥会

2008年10月13日(月・祝) 9:00~11:00

松阪市高須町金剛川・櫛田川河口

中西 章・中村 洋子 参加者17名(会員16名)  
カイツブリ、カワウ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ミサゴ(2)、トビ、バン、オオバン、シロチドリ、メダイチドリ、トウネン、ハマシギ、アオアシシギ(10)、キアシシギ、ソリハシシギ、ホウロクシギ(1)、セグロカモメ、ウミネコ、ハクセキレイ、ヒヨドリ(渡り200羽)、モズ、ホオジロ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。計32種

当日は好天に恵まれ、探鳥会日和であったが、大潮の干潮時であったため、鳥の距離は遠かった。しかし、冬羽のトウネン・メダイチドリなどをはじめ、エクリプスのカモなどじっくり観察することができた。途中、渡りのヒヨドリ200羽の群れも観察できた。



### 取扱商品

フィールドスコープ  
双眼鏡(小型・大型)  
天体望遠鏡  
カメラ(新品・中古)  
その他光学製品各種

### 取扱メーカー

KOWA・NIKON・FUJINON  
MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他

中部地区最大の光学製品専門店

# TELESCOPE CENTER EYEBELL

テレスコープセンターアイベル (株式会社アイベル)

〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119

定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00

ホームページ <http://www.eyebell.com> メールアドレス [eyebell@diamond.broba.cc](mailto:eyebell@diamond.broba.cc)

### 町屋浦ミユビシギ探鳥会

2008年10月19日(日)10:00~12:00

津市町屋浦・河芸ヨットハーバー

平井 正志・中川 佐恵 参加者 14名(会員12名)

カワウ、アオサギ、マガモ、カルガモ、シロチドリ、オオセグロカモメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、スズメ、ハシボソガラス、カワラバト。計12種

8月末の豪雨で、大量の葦の屑とゴミが海岸に流れつき、それ以来ミユビシギはおろか、シロチドリもハマシギもいなくなった。予定していた町屋浦での観察を早めに切り上げ、やむを得ず、河芸ヨットハーバー北の海岸へ移動したが、イソヒヨドリが見られたただけであった。わざわざ滋賀県高島市からこられた方もいたのだが、残念。

### 木曾岬干拓地探鳥会

2008年10月26日(日)9:00~12:00

弥富市

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝・米倉 静 参加者13名

カイツブリ(10)、カワウ(5000)、ゴイサギ(1)、ダイサギ(16)、コサギ(10)、アオサギ(6)、マガモ(7)、カルガモ(250)、コガモ(221)、ヒドリガモ(4)、ハシビロガモ(2)、ホシハジロ(2)、ミサゴ(8)、トビ(1)、ハイタカ(1)、ノスリ(1)、チュウヒ(1)、ハヤブサ(2)、チョウゲンボウ(3)、キジ(3)、オオバン(2)、ケリ(2)、クサシギ(3)、イソシギ(5)、ユリカモメ(1)、キジバト(25)、ヒバリ(10)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(7)、セグロセキレイ(1)、ヒヨドリ(5)、モズ(6)、ジョウビタキ(2)、ノビタキ(1)、セッカ(3)、ホオジロ(5)、カワラヒワ(3)、スズメ(100)、ムクドリ(30)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(20)、カワラバト(30)、計42種

チュウヒ  
大陸型



最初に観察する池のすぐ近くの電波発信用の鉄塔に2羽のハヤブサが留まった。そこへ、ホシブトガラスの集団が攻撃、空中戦になりました。ノスリ、チョウゲンボウなど猛禽類もたくさん現れています。

### 中村川探鳥会

2008年10月26日(日)9:30~11:30

松阪市嬉野一志町(中村川中流域)

久住 勝司・小野 新子 参加者16名(会員10名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、イカルチドリ、オジロトウネン(3)、クサシギ、イソシギ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、セッカ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス。計26種

曇空のもと開催を危ぶんだが実施する事が出来た。目的のオジロトウネンはここ10年来最低の飛来数(3羽)を求めて、皆様の協力のもと幸いにも観察することが出来た。(3羽共)滞在場所の概様、鳴き声、餌等の説明をしたが大半が初めて見る方でも理解してもらえたと思われる。その他イソシギとクサシギの違い、カワセミの出現で大喜び、非会員の方々にも既に探鳥にハマッタ方もおられた。カワセミ人気は大したものだ。

今回はオジロトウネンの貴重な越冬場所で大々的な発表はさけたかったが、新聞を見て来られた非会員の方も多く、今後の探鳥会の際、マスコミへの情報提供が会員獲得の為にも、野鳥に興味を持ってもらう為にも大切な事を痛感した。

### 香良洲海岸探鳥会

2008年11月15日(土)10:00~12:00

津市香良洲町 香良洲海岸

今井 光昌・石原 宏 参加者8名(会員8名)  
カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、スズガモ、トビ、キジ、ミヤコドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ハマシギ、ミユビシギ、イソシギ、オオソリハシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、キジバ

しるちどり 60号

ト、コゲラ、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、  
ピンズイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソ  
ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、ホオジロ、カワラ  
ヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス。計 43  
種

朝からの雨、中止も心配されましたが、30分程  
前に上がりました。当日は狩猟解禁日であった為、  
ハンターたちの銃声が響いている中での探鳥会  
開始でありました。カモをはじめ鳥たちも右往左  
往していましたが、銃声が遠のくにつれ鳥たちも  
落ちつきを見せ、戻ってきました。数千羽のカモ、  
数百羽のハマシギ、カモメなどとてもにぎやかな  
香良洲海岸でした。雨も狩猟日も乗りこえミヤコ  
ドリをはじめ 43 種を観察でき全員大満足だった。

#### 木曾岬干拓地探鳥会

2008 年 11 月 23 日 (日) 9:00~12:00

弥富市

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝・米倉 静 参加者 24 名

カイツブリ(15)、カワウ(7000)、ダイサギ(3)、  
アオサギ(5)、マガモ(20)、カルガモ(150)、  
コガモ(350)、オカヨシガモ(20)、ヒドリガモ  
(5)、ハシビロガモ(5)、ホシハジロ(5)、キン  
クロハジロ(16)、ミサゴ(6)、トビ(1)、オオ  
タカ(1)、ノスリ(5)、チュウヒ(3)、チョウゲ  
ンボウ(2)、キジ(4)、オオバン(1)、タゲリ(15)、  
クサシギ(1)、イソシギ(2)、ユリカモメ(1)、  
キジバト(3)、カワセミ(2)、ヒバリ(10)、キ  
セキレイ(2)、ハクセキレイ(30)、タヒバリ(20)、  
ヒヨドリ(30)、モズ(5)、ジョウビタキ(4)、  
ツグミ(30)、ウグイス(2)、メジロ(7)、ホオ  
ジロ(5)、カワラヒワ(3)、ベニマシコ(2)、ス  
ズメ(150)、ムクドリ(60)、ハシボソガラス(50)、  
ハシブトガラス(200)、カワラバト(4)、計 44  
種

見た瞬間に鳥の名前が出る小学校低学年の子  
が参加しました。今日は 42 種観察できたと喜んで  
帰りました。冬の鍋田・木曾岬干拓地は日本で  
も有数の探鳥地のようです。

#### 服部川河川敷探鳥会

2008 年 11 月 30 日 (日) 10:00~12:00

伊賀市服部町

塗矢 尋一・前澤 昭彦 参加者 8 名(会員 4 名)  
カワウ(1)、アオサギ(1)、ノスリ(2)、クサシギ(1)、  
キジバト(2)、セグロセキレイ(4)、ヒヨドリ(2)、  
モズ(1)、ジョウビタキ(1)、シロハラ(1)、ツグミ  
(3)、ホオジロ(3)、カワラヒワ(4)、イカル(6)、ス  
ズメ(2)、ハシボソガラス(2)、ハシブトガラス(4)。  
計 17 種

曇で強風のため寒くて鳥も少なかった。

#### 松阪ベルファーム探鳥会

2008 年 12 月 6 日 (土) 9:30~11:30

松阪市伊勢寺町 松阪ベルファーム

中村 洋子・水森 和子 参加者 22 名(会員 17  
名)

カイツブリ、カワウ、ヨシゴイ、ダイサギ、アオ  
サギ、マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ、  
オカヨシガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キン  
クロハジロ、ミコアイサ( )、トビ、チョウゲ  
ンボウ、オオバン、キジバト、キセキレイ、ハク  
セキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジ  
ョウビタキ( )、ツグミ、メジロ、イカル、シ  
メ、スズメ、ハシボソガラス。計 30 種

西高東低型の本格的な冬型の気圧配置で北風  
が強く外気温が 7 8 の寒い日にもかかわらず 22 名  
の参加者があり目の前で木の実をついば  
むシメ、ミコアイサのメスなど全員で観察しまし  
た。



コハクチョウ

#### 海蔵川探鳥会

2008 年 12 月 9 日(火)9:40~10:00

四日市市西坂部町海蔵川沿い

尾畑 玲子 参加者 7 名(会員 6 名)

しろちどり 60 号

カイツブリ、カワウ、アオサギ、カルガモ、ヒドリガモ、バン、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。計 24 種

午後からは降りだすとの予報だが開会時は太陽のぬくもりを感じ風も弱いおだやかな日よりであった。第 1 幕はカワセミショー、その美しさに長い間魅了された。途中ここでは珍しいヒドリガモも見られ、堰の稼働による影響を見せつけられた。第 2 幕はモズが竹の先端でカエルを竹に固定しお食事中。なまなましいがおいしそうに食べる様子を観察できた。第 3 幕は同じ竹林から飛んだ白化(?)のカワラヒワ。むねが黄色、頭は白っぽい。参加者大満足。

#### 神路ダム探鳥会

2008 年 12 月 14 日(日) 9:30~12:00

志摩市磯部町恵利原

今村 禎・中村 みつ子 参加者 12 名(会員 10 名)

カイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、オシドリ、マガモ、カルガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、キンクロハジロ、ミサゴ、トビ、ノスリ、コゲラ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、ハシブトガラス。計 24 種

天候に恵まれず、オシドリは岸側に隠れており、湖面にはあまり出なかったため満足出来る程観られなかった。

#### 安濃ダム探鳥会

2008 年 12 月 23 日(祝) 10:00~11:30

津市 安濃ダムおよび横山池

平井 正志・橋本 勇 参加者 9 名(会員 9 名)

カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、オシドリ、カルガモ、コガモ、トモエガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、トビ、オオバン、ハクセキレイ、ヒヨドリ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、カシラダカ、オオジュリン、カワラヒワ、ムクドリ、ハシボソガラス。計 25 種

気温は低いが快晴無風。いつもに比べると参加

者が少ない。おしどりも 17 羽で少なく、いつも見えるマガモもいない。クマタカを期待してダム上空を見上げるがむなしかった。安濃ダムは早めに切り上げて横山池に向かう。カモは多くないが、カンムリカイツブリが一羽、ミコアイサが数羽、残念ながら雄は見られなかった。トモエガモ、ヨシガモも見られた。閉会后、安濃ダムへ戻り、湖水荘で、津地区会。2009 年度の計画を話し合った。

#### 木曽岬干拓地探鳥会

2008 年 12 月 28 日(日) 9:00~12:00

弥富市

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝・米倉 静 参加者 19 名

カイツブリ(10)、カワウ(150)、アオサギ(4)、マガモ(70)、カルガモ(120)、コガモ(300)、オカヨシガモ(5)、ハシビロガモ(20)、ホシハジロ(20)、キンクロハジロ(50)、スズガモ(6)、ミサゴ(4)、ノスリ(2)、ハヤブサ(1)、チョウゲンボウ(1)、キジ(6)、タゲリ(26)、クサシギ(1)、イソシギ(2)、ユリカモメ(1)、キジバト(2)、ヒバリ(10)、ハクセキレイ(30)、タヒバリ(10)、ヒヨドリ(10)、モズ(3)、ジョウビタキ(2)、ツグミ(60)、シジュウカラ(1)、ホオジロ(3)、カワラヒワ(100)、スズメ(50)、ムクドリ(70)、ハシボソガラス(150)、ハシブトガラス(30)、カワラバト(70)、計 36 種

風が強くて、寒い日でした。木曽岬干拓地では目当てのチュウヒがでなくて、代わりにハヤブサが飛んでくれました。



マヒワ



### 銚子川河口探鳥会

2009年1月18日(日)9:00~12:00

紀北町海山 銚子川河口

中井 節二 参加者10名

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、クロサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ウミアイサ、ミサゴ、トビ、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、シメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、カワラバト。計42種

オオワシをメインにしていますが、地元の人に聞くと3日前まで見れたと言っていました。しかし42種見られて、皆さん満足していただいたようです。

### 宮川・外城田川探鳥会

2009年1月25日(日)9:30~11:30

伊勢市磯町

西村 泉・竹林 康 参加者7名(会員6名)

カイツブリ、カワウ、アオサギ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、ミサゴ、トビ、ケリ、ハマシギ、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、カモメ、キジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、カワラバト。計36種

この時期としては珍しく穏やかな日となった。宮川ではカモは少なかったが、外城田川では7種のカモ(約1,000羽)をゆっくり観察することができた。

### 木曽岬干拓地探鳥会

2009年1月25日(日)9:00~12:00

弥富市

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝・米倉 静 参加者22名

カイツブリ(13)、カワウ(100)、ダイサギ(1)、アオサギ(6)、マガン(2)、マガモ(30)、カルガモ(80)、コガモ(250)、オカヨシガモ(35)、ヒドリガモ(3)、オナガガモ(2)、ハシビロガモ(20)、ホシハジロ(30)、キンクロハジロ(20)、スズガモ(2)、ミサゴ(4)、ハイタカ(1)、ノスリ(3)、ハイイロチュウヒ(1)、チュウヒ(6)、チョウゲンボウ(1)、キジ(4)、オオバン(2)、ケリ(1)、クサシギ(3)、イソシギ(4)、ユリカモメ(1)、カモメ(2)、キジバト(10)、カワセミ(1)、ヒバリ(20)、ハクセキレイ(3)、タヒバリ(2)、ヒヨドリ(20)、モズ(3)、ジョウビタキ(3)、シロハラ(1)、ツグミ(30)、ホオジロ(10)、アオジ(1)、カワラヒワ(30)、スズメ(100)、ムクドリ(50)、ハシボソガラス(30)、ハシブトガラス(5)、カワラバト(50)。計46種

天気は快晴でした。天気の良さに誘われてか、46種を観察できました。木曽岬干拓地では保全区の工事で観察できる猛禽類の数が減っているのですが、ハイイロチュウヒ・チュウヒ・チョウゲンボウなど、鍋田・木曽岬を代表する冬の猛禽類がでてくれました。



カイツブリ

## しろちどり原稿募集

編集部では原稿を募集しています。鳥に関わるどのようなことでも結構です。

原稿は、編集担当 近藤義孝まで E-mail:fwhy4368@mb.infoweb.ne.jp

住所 〒511-0123 桑名市多度町北猪飼 521

### 北勢地区 地区会情報

北勢地区では毎月第二土曜日に、日本野鳥の会三重県支部事務所（四日市市元新町4）で地区会を第2土曜日10時より開催しています。

変更になることもありますから、初めて参加を希望される方は問い合わせをしてください。

北勢地区会の問い合わせは、

近藤義孝 E-mail:fwhy4368@mb.infoweb.ne.jp

0594-48-3260（午後7時から午後9時の間におねがいします。）



ミサゴ



ダイサギ

### 編集後記

コーワがヨーロッパで配布しているカレンダーをいただきました。4月のページにイギリスでヨーロッパチュウヒが1つがいから、360組のつがいまたは、一夫多妻まで増やすことに成功したという内容が書いてありました。昨年開いたチュウヒサミットでは日本で50つがい程度、三重県では木曾岬干拓地の1つがいという状況です。イギリスのようになるにはどうしたらよいか、チュウヒ保護の国際会議を来年開催する計画を（財）日本野鳥の会保護室と一緒に計画しています。

Y.K.

### しろちどり 60号

2009年3月20日発行

題 字：濱田 稔

表紙絵：北川和則

写 真：近藤義孝

編 集：近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼521

発行所：日本野鳥の会三重県支部

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野910-49

[http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/)

印 刷：東海出版（有）

510-0885 四日市市日永4丁目5-48